



子どもの森づくり通信

(発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

JP子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2016年2月号)

〒144-0054 東京都大田区池上1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
<http://www.kodomonono-mori.net> <mailto:info@kodomonono-mori.net>

「JP子どもの森づくり運動」とご縁をさせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。



子森通信2月号は、三重県で開催された「全国集会&研修会2016」の開催レポートをお送りします。幼児期の環境学習活動の意義、公益法人の地域公益活動、そして、本当に子どもたちの命を守るための防災活動、それぞれ有意義な二日間の集会と研修会となりました。今回得られた成果は、参加者それぞれの園で活用されます。事務局としても、今後の活動に反映したいと思います。(写真：三重県「ほうりん保育園」での植樹活動風景)

(目次)

1. JP子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2016」レポート
2. 事務局からのお知らせ
 - 新・どんぐり博士の育苗講座(2016年2月号) ~“どんぐり”の植えつけ2~

■「JP子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「JP子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の幼稚園・保育園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「JP子どもの森づくり運動」運営体制

- ・運営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)
- ・特別協賛 : 日本郵政グループ
- ・後援/協力

(公社) 全国私立保育園連盟	(公社) 大谷保育協会
(公社) 国土緑化推進機構	NPO法人C・C・C富良野自然塾
(一社) 日本森林インストラクター協会	NPO法人自然体験活動推進協議会
NPO法人MORIMORI ネットワーク	(一社) 日本オート・キャンプ協会
(株) 実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部	保育環境研究所ギビングツリー



1. JP子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2016」レポート

JP子どもの森づくり運動が主催する「全国集会&研修会2016」が、三重県鈴鹿市にて開催されました。

今年のテーマは、一日目が、幼児期の環境学習活動と公益法人の地域公益活動について、二日目が、園における防災活動についてです。全国から約30名の参加園関係者や関係団体の方にお集まりいただき、本当に有意義な集会と研修会となりました。掲載スペースの都合でまずは概要のみですが、以下に開催レポートをお送りします。詳細は、近々、ホームページにてご紹介します。

<一日目>

1) 基調講演

幼児期の子どもたちの環境学習活動に関する問題提起として、お二人の方にご講演いただきました。

お一人目は、「富良野自然塾」副塾長 林原博光氏から、「21世紀を生きていく子どもたちに」というテーマで環境学習活動の意義について、お二人目の 筑波大学 生命環境系 教授 津村義彦氏から「多様な森林の持続的な保全について」というテーマで、生物多様性的な森づくりについてお話しいただきました。



富良野自然塾 林原博光氏



筑波大学 津村義彦氏

2) 幼児期の環境学習活動について

基調講演を受けて、JP子どもの森づくり運動における環境学習の意義や方法について、事例報告や意見交換会を行いました。



問題提起：子森ネット 清水英二



事例報告：大野幼稚園 末永先生



事例報告：ほうりん保育園 弓巾園長

3) 公益法人の地域公益活動について

青い鳥保育園 岡村園長のコーディネート、三和新琴似保育園 菊地園長による問題提起、さらに、鴉田理事長による春明保育園の地域防災活動についての事例報告を踏まえ、公益法人の地域公益活動について活発な意見交換会が行われました。



青い鳥保育園 岡村園長



三和新琴似保育園 菊地園長



(社福) 春明会 鴉田理事長

<二日目>

1) 基調講演

二日目は、防災講座です。

まずは基調講演として、岩手県山田町の震災語り部昆尚人氏から、「あの日のわたしたちのこと」をテーマに、「東日本大震災」当時のこと、そしてその後の復旧の現実についてご講演いただきました。



2) 防災講座

「本当に子どもたちの命を守る」ことをテーマとする防災講座です。防災講座の講師は、おなじみの消防庁防災アドバイザーの(株)タフ・ジャパン 鎌田修広氏です。今年も、座学だけではなく実践、実技たっぷりの刺激的な防災講座となりました。

これまでの鎌田講師による防災講座の成果として、JP子どもの森づくり運動参加園ネットワークによる「災害時相互支援協力協定」の第一号が取り交わされました。相互支援協力協定は、同時被災を避けるために、比較的遠距離の参加園三園によってトライアングルの関係で構築されます。今回は、九州の青い鳥保育園、東京の春明保育園、岩手県山田町の社会福祉法人三心会との間で構築されました。ネットワークは、今後、広げてまいります。



全国集会 & 研修会2016の二日間が終了しました。最後にみんなで記念撮影です。

3) オプション講座～“どんぐり”の苗木植樹体験～

全国集会 & 研修会終了後、オプション講座として、今回の幹事園三重県「ほうりん保育園」を訪問しました。園では子どもたちによる地元の“どんぐり”の苗木の春植え活動や、東北復興グリーンウェイブの苗木への水やり活動が行われました。園もよりの鈴鹿長太郵便局の渡邊局長さんにもご参加いただき、ごあいさついただきました。



今回の全国集会 & 研修会の開催については、幹事園「ほうりん保育園」の弓巾園長先生ご夫妻、及び職員の方に大変お世話になりました。あらためて御礼申し上げます。おかげ様で、今年も大変有意義な企画となりました。来年は広島県での開催となります。また、お会いしましょう。

2. 事務局からのお知らせ

1) ユーチューブチャンネル「子森チャンネル」更新のお知らせ

JP子どもの森づくり運動の活動を動画で配信しておりますユーチューブチャンネル「子森チャンネル」が新企画に更新されました。新企画では昨年末に開催されました「エコプロダクツ2015」における“東北のどんぐりの手渡し会”をモチーフに、

①東北の“どんぐり”手渡し会を紹介する作品と②東北の“どんぐり”が拾われ、手渡され、植えられるまでのどんぐりの旅を紹介する作品をアップしました。是非、ご覧下さい。

* アドレス ⇒ <https://www.youtube.com/channel/UC8u4Ryh1Ey5iaWtoCK8vl8Q>

* ホームページからの視聴方法：JP子どもの森づくり運動ホームページ ⇒子森チャンネル&通信 ⇒子森チャンネル

* なお、活動の内容は、日本郵政グループのホームページでもご覧いただけます。

⇒ http://www.japanpost.jp/csr/case/movie/2016_001.html



2) 「アウトドアデイジャパン東京」森の体験のご案内

JP子どもの森づくり運動では、今年も、4月9日（土）・10日（日）の両日で、代々木公園（東京都）にて開催される「アウトドアデイジャパン東京」に出展します。同会場において、昨年につづき、下記の内容で、代々木の森の体験プログラム「森の色を探そう！」を開催します。

現在、参加者を募集中です。

・日時：2016年4月9日(土)①11:00～ ②14:00～

・会場：代々木の森 ・募集人数：先着10名程度

・参加費：無料 *雨天の際は、翌日に順延とします。

・参加申し込み：子森ネットまでメールにて。info@kodomonono-mori.net

* 今年のプログラムは、アウトドアマガジン「ガルヴィ」とのコラボレーションで開催され、活動の内容が本誌にて紹介されます。



●新・どんぐり博士の育苗講座（2016年2月号）～どんぐりの植えつけ2～

前回から、どんぐりの植え付けについて記しています。今回は、プランターやポリポットに土を準備する所まで説明しました。今回は、春の発芽率を良くするために行う、どんぐりの仕分け作業について説明します。

どんぐり博士：河内和男（「子森ネット」森林インストラクター）



子どもたちの拾ったどんぐりが沢山集まったら、最初に忘れずに実施してほしいのが水による仕分け作業です。

この作業によってどんぐりの発芽率が大きく違って来ます。

①水によるどんぐりの仕分け作業

直径50cm以上のタライか大きめのバケツを用意します。そこに集めたどんぐりを全て入れて、バケツなどで一気に水を注ぎ込みます。水の量の目安は、深さが10cm程度ですが、全てのどんぐりが完全に水没するまで水を入れてください。すると、一部のどんぐりが浮かび上がってきます。水に浮くどんぐりは、虫の食害を受けて内部に空洞があるためや、未成熟で実が詰まった重いどんぐりに、なっていないためなど考えられます。つまり発芽の可能性が低いどんぐりです。ですから、全体を良くかき混ぜて、浮いてくるどんぐりは全て取り除き、水の底に沈んでいるどんぐりだけを植え付けに使用します。

②沈んだどんぐりからさらに良いものを選ぶ

以上の仕分けを行っても、植え付ける数より、かなり多くのどんぐりが残っているはず。そこで、残ったものの中からより良いどんぐりを選んで、植え付けたいものです。その見分け方は、大きさと色です。できるだけ大きいどんぐりが良く、色は緑よりは濃い茶褐色でつやの有るものがよいと言われています。そのようなどんぐりを子ども達と一緒に探しながら、楽しく活動を進めて下さい。

紙面の都合で今回はここまでです。発芽の可能性が高いどんぐりが選べた後の、植え付け方は次回とします。次回もお楽しみに。